

# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)の取組事例

## 「地域学校協働活動(学校支援活動)」(宮城県石巻市)

### 取組の概要や経緯

学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら、協働し、社会の中で、たくましく生きる子どもたちを地域全体で育む協働教育を推進することを目指している。この事業は、平成28年度から、原則、同一校に3年間継続して委託し、地域における協働教育の土台づくりに取り組み、各学校の特色ある実践により、児童・生徒の学習活動の質を高めることにつなげている。



鹿又小「野菜を育てよう」

### 内容

(1) 協働教育推進事業の実施校・・・市内小・中学校15校へ委託

釜小、鹿又小、大原小、万石浦中、河南東中、湊小、稲井小、飯野川小、河北中、北上中、須江小、北村小、桃生小、住吉中、湊中

- (2) 協働教育支援会議・・・年2回実施(協働教育事業全体の計画と実施報告及び評価・検証)
- (3) 協働教育各種研修会・連絡会議・・・石巻市協働教育コーディネーター研修会を1回実施(県と共催)
- (4) 協働教育コーディネーター委嘱・・・市内全小学校へ1名ずつ配置(33名)
- (5) 学校支援地域コーディネーター委嘱・・・市内小・中学校区15校へ配置(16名)



須江小「内モンゴル交流学習」

### ポイント

- (1) 協働教育推進事業は、意向調査により実施校を選考し、事業の実施を委託する。
- (2) 協働教育支援会議は、石巻市の協働教育事業全体の成果と課題について話し合う場。
- (3) 協働教育各種研修会・連絡会議は、地域連携担当教員、地域コーディネーター等を対象に実施する。
- (4) 協働教育コーディネーターは、市内すべての小学校に1名ずつ、学校側の窓口として委嘱する。
- (5) 学校支援地域コーディネーターは、学校と地域をつなぐ役割を担う、地域側の窓口として委嘱する。



北上中「先輩から話を聞く会」

### 成果

- ・地域コーディネーターは、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた活動として、子どもたちが登校しない期間の学校畑整地やオンラインを活用した学習支援など、各々がアイデアを出して活動に取り組んだ。
- ・協働教育支援会議で各事業の成果と課題を参加者全員で共有し、意見交換することにより、次年度の事業計画の参考にすることができた。

学校支援地域 コーディネーター	H30	R1	R2	R3
人数	15	17	17	16

### 今後の方向性

- ・協働教育推進事業は、令和元年度から取り組んでいる5校が3年の実施を終え、令和4年度からは新規5校を加え、計15校での実施を予定している。
- ・学校支援地域コーディネーターの委嘱については、コミュニティ・スクールの導入状況を踏まえた小・中学校区ごとの配置を検討する。

# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

## 地域学校協働活動の取組事例

### 「子どもも大人も共に学び育ち合う」(宮城県白石市)

#### 取組の概要や経緯

- ・令和2年7月に地域学校協働本部を立ち上げ、支援団体の充実と各組織間のネットワーク化を図ってきた。また、これらの支援ボランティアの組織化を推進してきた。
- ・地域コミュニティの活性化の一助として、地域と学校が青少年の教育課題を踏まえ、協働活動を推進しながら健全育成に努めている。

#### 内容

学校支援活動は、登下校安全指導、登山ボランティアなどの自然体験活動、地域の消防団と協働し、放水・消火訓練、能楽堂での日本舞踊、茶道体験などの伝統文化体験など、ボランティア派遣を実施。また、職場体験学習では、市内事業所の受け入れ先のリストを学校へ提供し、学校の要望と事業所とのマッチング作業を行っている。地域活動は、ジュニアリーダーの研修や子どもの体験学習の一環としてキャンプを行うなど、地元の資源を活用しながら、子供達が持っている力を発揮できる機会をつくる場になるよう工夫して実施している。

#### ポイント

市内小中学校に地域連携担当教員を配置、研修会及び教育委員会と各学校の担当者との会議を実施して連携して取り組んでいる。登山・スキー・読み聞かせ等のボランティアの組織化を図り、より充実した活動を推進している。

#### 成果

- ・コロナ禍の影響により、例年よりも活動が少なくなったが、子どもたちの学校内外の活動を支援することで、子どもたちの成長や学習意欲の向上の一助となった。
- ・支援者自身の自己実現や地域の活性化にも繋がるなど、相互にパートナーとして連携することができた。

#### 今後の方向性

少子化、学校の統廃合により、特色ある教育活動や地域特有の文化継承が困難になると予測される。

高齢化に伴う人材不足も課題であることから、集約した情報(人材バンク化)を有効に活用し、地域づくりを行っている団体や活動に関わる市民の方々と情報共有しながら、世代間交流や人材育成、地域課題の解決にも繋がるような、連携した活動をしていくことが必要と考えている。





# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

## 地域学校協働活動の取組事例

### 「学校を核として」地域・学校が連携・協働する教育活動 (宮城県 名取市)

#### 取組の概要や経緯

子供を取り巻く問題が複雑化・多様化している背景を踏まえ、地域と学校が子供の成長を支えるという同じ目的を持って教育課題に取り組むことを目指してきた。その仕組みとして、**小・中・義務教育学校区毎に地域学校協働本部が設置**され、**地域の実情に合わせて継続的に活動**できるようにしている。



#### 内容

令和3年度は、**市内全小・中・義務教育学校区で事業を展開**した。13小・中・義務教育学校区では29名の**地域住民がコーディネーター**となり、2小学校区では**公民館がコーディネート機能**を担い、**地域の実情に合った活動**を行った。小学校では、登下校の見守り・読み聞かせ・ミシン学習補助などの既存の支援に加え、校外学習・宿泊行事の引率補助、コロナ禍に対応した校内の消毒作業などの活動が行われた。中学校では、キャリア教育を行う際の講師の選定や連絡調整等の運営の一部を協働本部が担うことで教員の負担減にもつながっている。コーディネート機能を担う公民館では学校支援のほか、地域団体と連携した農業体験や放課後の地域見守り活動に小学生が参加するなど、地域活動も多く行っている。



#### ポイント

- ①**協働本部と市が委託契約を結び**、市は活動に係る経費を委託料として支払う。
- ②地域コーディネーター、教員、公民館職員を**一堂に会した研修会を実施**。
- ③全小学校区にある公民館が、協働本部・活動の**連携・推進に寄与**。

#### 成果

- ・多くの方に見守られることで、子供たちの学びや体験活動が充実するとともに、安全の確保にもつながっている。
- ・学校支援に地域住民が参加すること、地域活動に子供が参加するによって地域の活性化につながるとともに、保護者や地域住民の学校に対する理解が深まっている。
- ・学校が学習の成果を発揮する場となること、子供たちと関わることで、ボランティアのやりがいにつながっている。

#### 今後の方向性

- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を鑑み、協働本部は名取市の社会教育の強みである小学校区に1つ設置されている公民館に置く。
- ・公民館と協働本部・地域コーディネーターが連携することで、コーディネート機能の強化・多様で継続的な活動の実施を図り、名取市らしい体制で取り組む。

## 「学校・家庭・地域連携協力推進事業(学校を核とした地域力強化プラン)」 地域学校協働活動(学校支援活動)の取組事例

### 「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」(宮城県 多賀城市)

#### 取組の概要や経緯

##### 【学校支援地域本部事業】

平成21年度より事業を開始し、震災の影響で平成23年度、24年度は休止したが、平成25年度より事業を再開した。地域コーディネーターを軸として4つの中学校区を中心に学校支援活動を展開し、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的としている。

#### 内容

##### 【学校支援地域本部事業】

- ・地域教育協議会の実施(支援内容の検討、情報交換) ・協働教育だよりの発行
- ・ホームページの更新 ・地域学校協働本部の設置に向けての情報交換

#### ポイント

- ・地域コーディネーターを中学校区ごとに複数配置することで、多様なニーズにこたえられるようにしている。
- ・学校の状況を踏まえつつ、コロナ禍での学校支援活動の在り方を地域教育協議会で探ることができた。オンラインや校外での支援活動など、学校と地域の連携・協働の継続を図った。

#### 成果

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、活動支援の回数は多くはなかったが、本事業を中止することなく、学校の要請に対して地域コーディネーターを中心に地域ボランティアの紹介ができた。

#### 今後の方向性

- ・多様な地域住民の参画による学校支援活動を展開し、多様な体験を通して、児童生徒の学びをより充実させることができるような体制(地域学校協働本部)を整備する。



校外学習見守りボランティア



オンラインによるキャリアセミナー



地域学習補助ボランティア

# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

## 学校支援活動の取組事例

### 「地域ぐるみによる教育支援」(宮城県登米市)

#### 取組の概要や経緯

- ・登米市学校・地域教育力向上対策事業  
学校、地域がそれぞれの教育力を充実させ、相互に協働しながら人づくりを推進する事業。学校からの要請により教育事務所に配置された協働教育コーディネーターがボランティアを発掘・養成し、教育活動を支援している。
- ・登米市キャリア教育支援事業  
児童生徒の職業観や人生観を醸成する学びの環境づくりとして、多種多様な講師を招聘したキャリアセミナーを実施している。



#### 内容

- 登米市学校・地域教育力向上対策事業  
協働教育地区コーディネーターが、学校の支援ニーズに合わせて地域住民ボランティアを派遣している。
- 登米市キャリア教育支援事業(キャリアセミナー)  
講師を招き「仕事の内容、やりがい、苦労」「現在の仕事に就ききっかけ、方法」、「個人の人生観」等を、少人数編成(10人程度)で生徒たちと近い距離で語り合う。



#### ポイント

1. 統括コーディネーター(社会教育指導員)を中心に、旧町域単位(教育事務所)に9人の協働教育コーディネーターが相互に連携・協力し合い、地域ぐるみの教育活動を支援している。
2. キャリアセミナーの講師は市教育委員会生き生き学校支援室、協働教育コーディネーター、学校の三者が連携しながら招聘している。
3. 学校関係者とボランティアとの研修会、地区におけるボランティアと学校との交流等大人の学びの場と地域との結びつきの場を作っている。



#### 成果

- ・【登米市学校・地域教育力向上対策事業】  
コーディネーターが学校と地域を繋ぐことで、ボランティアが継続的に学校教育活動に関わることができた。登下校の安全見守りや図書室整理の支援など、子どもたちのより良い教育環境の提供に繋がった。
- ・【登米市キャリア教育支援事業(キャリアセミナー)】  
児童生徒からは仕事の内容や憧れの仕事に就くため方法を知るだけでなく、講師の生き方への共感、地元への愛着心が芽生える等、様々な反応が見られた。

#### 今後の方向性

- ・学校・地域教育力向上対策事業  
コミュニティスクールとの相互連携を図り、学校・家庭・地域との結びつきを深め、支援から協働への活動へと導く。
- ・キャリアセミナー  
学校との連携を密にし、子どもたちの将来を見据えた職業の講師を選定し、より充実した事業を展開する。



# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

## 地域学校協働活動の取組事例

### 「富谷市地域・学校・家庭をつなぐ取組(学校支援活動)」(宮城県富谷市)

#### 取組の概要や経緯

文部科学省の掲げる「学校を核とした地域づくり」を目指すため、地域の力が結集される各公民館に、地域学校協働本部を設置している。5つの協働本部で各地区の地域コーディネーターを中心に、学校教育の支援を地域の住民らと共に、各地区の特色あるテーマを掲げ、実施している。



#### 内容

本市の地域学校協働本部は、富谷、富ヶ丘・日吉台、あけの平、東向陽台・明石台、成田の5つ設置し、地域ごとに5つのテーマをもとに、活動を展開している。富谷地区(富谷中央公民館)は、「富谷の伝承文化を大切にしよう」のテーマのもと、かつて宿場町として栄えた歴史と伝統のある「しんまち地区」をベースに、本市の歴史学習や伊達政宗公の時代より伝わる「富谷田植踊り」の体験学習を地域の方々と実施している。また、新興住宅が立ち並ぶ成田地区(成田公民館)では、「音楽で心を重ねよう」のテーマのもと、弦楽四重奏の演奏会や市民歌の合唱など、音楽にふれあいながら、活動の実施をしている。このほかにも、環境美化活動や図書整備、作品展の実施など、テーマにとらわれず幅広い活動を行い、地域と学校を繋ぎながら、子どもたちの育成と地域コミュニティの醸成に励んでいる。



#### ポイント

- ①地域からの信望の厚い地域コーディネーターを各地区に数名配置。
- ②年に数回、学校の教員や地域関係者、行政区長らでつくる協議会を実施。
- ③学校ではなく、地域活動の中心である公民館に地域学校協働本部を設置。
- ④前例にとらわれない幅広い学校支援を行う。

#### 成果

子どもたちにとっては、普段の授業だけではなく、地域の人たちを交えた授業や活動を行うことにより、子どもたちの授業への理解度や地域の方との交流を深めることができた。地域の人たちにとっては、地域での希薄化されつつある地域コミュニティを構築することができ、これらの活動が地域の横のつながりをも醸成されていると思われる。また、新型コロナウイルス感染症の影響から、対策を講じながらの活動にも取り組むことができたと思われる。

#### 今後の方向性

- ①新型コロナウイルス感染症の影響により減少した活動数を従前どおりに戻していく。
- ②新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら工夫をしながらの活動を実施。
- ③地域コーディネーターや学校支援ボランティアへの研修会を行い、コーディネート能力などの向上を目指す。
- ④地域から学校への支援のほか、子どもたち主体で地域に還元する取組ができるよう考える。

# 「宮城県学校・家庭・地域連携協力推進事業（学校を核とした地域力強化プラン）」の取組事例

## （１）学校支援活動 「ざおうっ子応援団」（宮城県 蔵王町）

### 取組の概要や経緯

地域の資源や地域の人材を活用し、子どもたちの学習意欲の向上を図るとともに、身近にあるもののお話や体験活動を通して、学習の効果を深める。

### 内容

蔵王町の協働活動推進事業の核として、登録ボランティア「ざおうっ子応援団」を組織し、町内の小中学校における学習支援（指導・補助）を行う。学校から求められる校内での学習支援のほか、校外学習（水辺の楽習、登山指導、スキー教室）の支援及び指導、補助も行う。学習支援の種類は毛筆指導、町の歴史、水の働き、生け花教室、こけしの学習、福祉体験、茶道体験、ジオパーク（地域を知る）学習、熊の習性を知るなど多岐にわたる。個人や団体による登録ボランティア数は現在約90件である。

### ポイント

2名の協働教育コーディネーターが町内8小中学校からの要望を取りまとめ、ボランティアとのマッチング、連絡・調整を行うことで、学校側の負担軽減に役立っている。地域資源や人材を活用した体験式授業により、普段の勉強に加えて、実のある学習・地域とのつながりを学ぶことができる。

### 成果

学校の担当教員が代わっても、コーディネーターによる連絡・調整でスムーズな学習継続が行われている。登録ボランティアの人たちも、孫世代の子どもたちとの交流ができるため、張り切って指導に取り組んでいる。ボランティアが自分の知識や特技を生かし、気持ちよく活動し、活動を生きがいにできるよう、より効率的なコーディネートやバックアップを行っていくことも求められている。

一方で、町民の本事業に対する認知・理解度はまだまだ低いため、リーフレットや広報活動などを通して周知を促進していく必要がある。



### 今後の方向性

コロナ禍において、学校側の要望を受けて、ボランティアとのマッチングを行い、十分な感染症予防対策を講じながら、安全で安心な学校支援活動が出来るようコーディネートしていく必要がある。



# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域学校協働活動の取組事例

## 「柴田町協働教育推進事業 学校支援活動の取組事例」(宮城県柴田町)

### 取組の概要や経緯

学校の教育活動を地域が支援する体制を整備し、煩雑化した学校の業務を軽減し、教師の教育活動の時間確保と充実を図るとともに開かれた学校づくりを推進する。また、地域住民や企業の社会貢献を実現し、学習機会の提供や生きがい・やりがい作りの場を作り、地域の教育力の向上を目指す。

### 内容

- (1) 学校の要請に応じて「しばたっ子応援団」(学校支援ボランティア)の派遣
- (2) キャリア教育支援
- (3) 柴田町協働教育推進委員会(地域学校協働本部)の開催
- (4) しばたっ子応援団研修会の開催

### ポイント

- (1) 「学校が必要としている支援」にコーディネーターが寄り添い、先生が児童・生徒を思う気持ちを最優先
- (2) キャリアセミナーは少人数で実施して生徒と社会人講師の距離をより近く
- (3) 町内全域で組織化し、学校間・地域間で様々な情報効果ができる
- (4) ボランティア同士のネットワークを構築し、「やりがい」の共有

### 成果

- ・ コーディネーターの支援によりコロナ禍ではあったが先生が安心して新しい取り組みにチャレンジする環境を作ることができた。
- ・ 特にSDGsに関する事業については、学校としても全く新しい取り組みでしたが、年間を通して多くの地域の方が関わる支援活動として、生徒たちが実践するところまで繋げることができたことは、児童にとってもとてもいい経験になったと思う。



### 今後の方向性

ここ数年間で、コロナ禍もあり、ICTを活用した学校教育の普及が進み、今では当たり前になりました。柴田町の学校支援活動は、地域の高齢の方が関わることも多くあるため、ICTの活用を推進することができなかったが、生徒・児童の継続的かつ多角的な教育を受けることができるようにICTを活用していきたい。



# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

## 地域学校協働活動の取組事例

### 「『郷土愛を育むふるさと教育』の推進(学校支援活動)」(宮城県丸森町)

#### 取組の概要や経緯

丸森町教育基本方針に則り、生涯学習の理念に基づき、心身共に健康で、豊かな心を持ち、町民としての連帯感を共有し、たくましく未来を拓く人間の育成を目指して、町民の生涯にわたる学習の充実に努めてきている。

#### 内容

学校・家庭・地域が協力して子どもを育てる仕組みづくりを行い、児童生徒が多くの地域住民と交流しながら、ふるさとの歴史・自然・人物・産業への理解を深め、「郷土愛を育むふるさと教育」を推進していくとともに、地域の教育力向上と活性化を図る。

■学校支援活動 …学校教育支援事業  
出前講座による学習等支援

#### ポイント

町民誰もが「いつでも、どこでも学ぶことができる生涯学習」推進のために、地域住民が学習成果を生かし、子どもとのかかわりや学校への支援を通じて地域社会・文化の持続・継承に繋げるため、学校・家庭・地域が連携することで、更なる事業の充実に努める。

#### 成果

子どもたちが地域人材を活用した出前講座や学校行事等を通して地域住民と関わることで、ふるさと学習を通して郷土愛を育むと共に丸森大好き人の育成に繋がっている。

また、子どもたちが地域住民と関わることで地域の一員としての地域活動に繋がっていることは大きな成果である。



#### 今後の方向性

参加者が減少している事業もあるが、それぞれの活動内容を充実させ、人と人の繋がりを育むことができる貴重な機会に、より多くの子どもたちが参加できるよう、今後とも家庭・学校・地域が連携を図りながら、継続して取り組んでいく。

# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」(学校を核とした地域力強化プラン) (学校の働き方改革をふまえた学校支援活動)の取組事例

## 「キャリアセミナー」(宮城県亘理町)

### 取組の概要や経緯

地域を再生していくにあたり、自分たちの生き方やまちづくりについてしっかりと考えることのできる児童・生徒を育成することが大切である。

そこで、町内中学校の生徒に対し、様々な職業や立場で活躍している方の講話を聞くことができる場面を設定している。

生涯学習課主催となり、NPOへ委託し、学校の働き方改革をふまえた学校支援(キャリア教育支援)の一環として、平成24年度から継続して開催している。

働く意義、喜びや苦勞、夢を実現させるための過程で大切にすべきことなどを聴き、自分の生き方をしっかりと考える機会とすることを旨とした事業を行っている。

### 内容

○NPO法人ハーベストに、事前打合せ及び当日の運営を委託。

○町内4つの中学校で実施。中学2年生対象(小規模校は1, 2年生)

○学校規模及び要望等をふまえた講師選定をお願いして、生徒は希望の講師2人から1時間×2コマずつ受講してアンケート用紙記入。

### ポイント

- ①学校の働き方改革をふまえた、キャリア教育支援の一環として、学校や生徒の要望も取り入れた柔軟な講師選定及び協力体制を構築し、生徒の学びを深める。
- ②様々な職業や立場の講師を選定により、生徒の興味・関心を引き出す。

### 成果

・自分がどのように生きていきたいか、また、将来の夢や職業をどのようにしていきたいかを考えることに対する意識の深まり高まりが感じられた。(R3調査「肯定的な回答」が96%)

※生徒の感想抜粋

まちづくりってどんなことをするのだろうと思っていた。具体的に「まちに足りないと思うこと」「人任せにはしない」ことを続けていくと理想のまちに近づくことがわかった。

・NPO法人ハーベスト及び講師の方々、学校が、事業の趣旨を理解し、自分たちの生き方についてしっかりと考えることのできる生徒の育成に対する協力体制が感じられる。

※校長先生の感想抜粋

親や教師が縦の軸で、友達が横の軸だとしたら今回のキャリアセミナーの講師の方々のお話は、斜めの軸の関わりではないかと感じた。身近にいる様々な職業をしている方々の話を聞いたのは、大変有意義であり、とてもありがたいと感じている。



### 今後の方向性

- ・現在、町内4校の中学校2年生対象で開催しているが、3年生に行くことも進路選択へ効果的ではないかという意見もあったので今後、検討していく。
- ・講師の選定にあたって、まちづくりに関わる方に来てもらい、講話をいただくことでより、まちづくりに興味・関心を持ってもらうようにする。



# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

## 地域学校協働活動の取組事例

松島の歴史と文化を学び、松島に誇りをもつ児童生徒を育む「学校支援活動・松島まるごと学」(宮城県 松島町)

### 取組の概要や経緯

- ・松島の歴史と文化を、地域と協働して学ぶ。
- ・平成27年度から、町内小学校・学年毎に共通の学習を年間指導計画に位置付けて実施している。



品井沼干拓学習(講師:地元有識者)



森林学習(講師:森林組合)

### 内容

- ・小学校4年生…品井沼干拓学習(地元有識者が講師)
- ・小学校5年生…森林学習(宮城中央森林組合職員が講師)
- ・小学校6年生…歴史学習<松島の縄文時代・瑞巖寺見学・坐禅体験・歴史巡りの旅>(教育委員会学芸員、瑞巖寺職員、大仰寺住職等が講師)
- ・中学校2年生…職業人の話を聞く会(町内事業所等の代表者が講師)



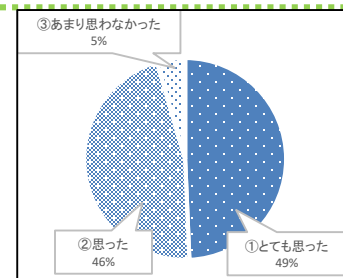
坐禅体験(講師:大仰寺住職)

### ポイント

- ・学校の教科での指導内容に沿った形で、地域の人的・物的資源を教育に生かすようにしている。
- ・可能な限り、実物を見たり触れたりすることができるようにしている。

### 成果

- ・アンケート調査の結果、学んだ内容を理解できたと回答した児童が97%、松島に関してより興味を持ったと回答した児童が95%となった。
- ・地域と協働して松島の歴史や文化を体験的に学ぶことをとおして、松島に関する理解・関心が高まり、地域住民とのかかわりも深めることができた。



【6年生児童対象】松島の歴史についてもっと知りたいと思いましたか。(n=223)

### 今後の方向性

- ・地域の更なる活性化と、学校支援活動の充実のため、現在地域コーディネーターとして活動している人材を軸に「地域学校協働本部」の設置を推進する。
- ・特定の人的・物的な資源に限らず、更に幅広く地域の人的・物的資源の発掘を進めると共に、効果的な活用方法を探る。



# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

## 学校の働き方改革を踏まえた活動(学校支援活動)の取組事例

### 「町は学校」学校・家庭・地域が連携した教育活動(宮城県大和町)

#### 取組の概要や経緯

各小中学校において、地域と学校による地域学校協働活動を行い、教育活動の充実を図るため、地域が一体となって子供を育てる組織を設置している。

令和2年度から組織の名称が変更され、「地域学校協働本部」として、地域と学校が双方向に協力し合い、教育に携わっている。

#### 内容

各地域学校協働本部により各学校における年間の活動を検討し、詳細を学校コーディネーターと地域コーディネーターが調整して実施している。また、上部組織である地域学校協働活動運営委員会では、コーディネーターやボランティア向けの研修会の企画と実施、広報誌の発行などを通して協働教育の普及啓発に努めている。

○吉岡、宮床、吉田、鶴巣、落合、大和中、宮床中学校区の各地域学校協働本部

・地域コーディネーターと学校コーディネーターが詳細を調整し、学校教育推進を行う

○地域学校協働活動運営委員会

・ボランティア研修会の企画、実施、広報誌の発行などの普及啓発活動

#### ポイント

- ①学校毎の活動記録写真等を用いた「協働教育カレンダー」「協働教育ニュース」を発行・配布することで、活動の様子を共有している。
- ②コーディネーターが各学校担当者と打合せを行い、活動をすすめている。
- ③地域ごとに地域学校協働本部を開催し、活動に関わる各地区団体の長が集まり話し合うことで、年間の活動の把握と支援体制を整えている。

#### 成果

- ・コロナ禍で人との関りが減少するなかで、多様な世代間での交流をすることができた。
- ・地域の伝統を学習することで、伝統の継承に繋がっている。
- ・活動の中で、児童からは「自分の特技といえるものが一つ増えた」という声もあり、児童の豊かな人間性を育むための一助となっている。
- ・地域と学校の交流により、児童生徒の地域への愛着が深まった。

#### 今後の方向性

- ・子どもを地域全体で育むために、各地区の特徴を活かした活動を支援する。
- ・地域間の人材不足や人数の格差の解消に向けて、地域を越えた活動についても促進する。
- ・統括的なコーディネーターの育成を図り、活動毎の連携を図る。



# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) の取組事例

## 「小学校を核とした伝統芸能継承活動」(宮城県加美町)

### 取組の概要や経緯

震災からの時間の経過に伴い、住民の地域に対する思いや伝統芸能を伝えたいという考えが深まり、その結果、学校での子どもたちへの指導という形につながった。

### 内容

賀美石小学校では、平成25年度から学区内で活動している「鳥屋ヶ崎獅子舞保存会」と「米泉獅子舞保存会」の協力を得て、同校児童が「獅子舞」を学習している。

令和3年度は、保存会が学校に出向き、小学5・6年生児童と練習を8回行った。

### ポイント

「獅子舞」の4つのパートである**笛**・**太鼓**・**山神**・**獅子**の担当を予め決めておき、各パートに分かれて学習することで、習得時間の短縮が図られた。

### 成果

- 子どもたちの郷土愛を育む環境づくりが図られた。
- 活動の成果を学校行事等で披露し、地域住民が高い関心を持った。
- 学習を通して、伝統芸能継承活動が図られた。



笛パート練習



太鼓パート練習



山神パート練習



獅子パート練習

### 今後の方向性

- 永く活動を継続していくための学校と地域（指導者）との連携維持を図る。
- 練習日が平日のため、指導者の確保が重要となる。

# 「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

## 「女川町協働教育プラットフォーム事業[学校支援]」(女川町)

### 取組の概要や経緯

被災により学区が編成され、小中1校ずつとなった。さらに児童生徒数が減少した。そのため、地域が一丸となって将来を担う子供たちを育て支えていく取組がますます求められている。そこで、学校教育現場における「地域の資源や教育力」の活用を、より積極的に促し、町内の子供は、みんなで育てる体制づくりを推進する。



### 内容

学習補助として、学校の教育活動のニーズに合った講師を授業に派遣する。また、校外活動等を町内で実施する場合も調整して講座を提供する。

[女川小学校] ○防災講話 ○サツマイモの苗飢え ○キャリアセミナー ○町探検  
○水産業 ○歯科学習  
○水辺の生物探索 ○リース作り ○着衣泳 ○クラブ活動サポート  
○3.11みやぎ鎮魂の日講話

[女川中学校] ○潮活動 ○職場体験 ○キャリアセミナー ○着衣泳 ○歯科講話



### ポイント

学校の教育活動に適切に対応できる講師を派遣する。また、座学だけではなく、必ず体験活動ができるように学習過程の計画を立てている。体験活動に関わる準備は、生涯学習課が全てになっているので、学校の負担が軽減し、教師に働き方改革の改善の一助となっている。

### 成果

小学校の学習補助に多数の講師を派遣することができた。

本年度の成果としては、教師から積極的に派遣の相談をいただけるようになり、学校教育と社会教育の融合で授業を展開する有効性に気付いていただけたと確信している。

中学校の「潮活動」は、本年度で26年目を迎える女川町の特色ある活動の一つである。これまで続けてこられた理由には、学校と地域、行政が融合し町ぐるみで協働してきた結果と言える。また、講座内容も社会的ニーズに合わせた内容と変遷しているため、生徒の学ぶ意欲も高まったと感じる。

### 今後の方向性

今後は、講師の発掘が事業の継続と発展の鍵となる。現在活躍している講師は、長年講座と関わりがあり、指導技術も高く児童生徒を十分理解しているため、児童生徒は楽しく学ぶことができている。こういった講師は、高年齢化しており講座の質を継続するためには、次世代の指導者の人材発掘と指導力の向上が急務となっている。

また、「人材バンク」の修正を同時に実施し、学校の職員が活用しやすいものにする必要もある。